

みどり

第37号

題字：村上昭史 園長



「私達は家族～家族として望む支援を利用者に～ 2年目の課題」

川部みどり園長 村上 昭史

昨年度に続いて、園の運営方針を表題のように定めた。「家族」という言葉から連想することは、人それぞれだろう。まして望みとなれば違いも大きい。みどり園には5歳から63歳までと幅広い年齢層の利用者70人近くが暮らしている。家族の望みは、子どもであれば成長であったり、高齢化してくれば健康と穏やかな暮らしであったりする。

園としては個別支援計画作成の過程で当事者の意向を確認しているが、計画には科学的な根拠を示して、納得・満足していただけるような支援をすることが専門機関としての責務と考えている。

昨年10月には障害者虐待防止法が施行された。利用者が脅かされず、心安らかに暮らせる場としての最低条件に虐待防止があるが、それは支援技術の向上と表裏一体である。

この4月には県内で震度5弱の地震があり、ひやとした。今年度は防災マニュアルを策定し有事に備えている。これまでの防災訓練の指摘事項を改善し、今後とも万全を期したい。

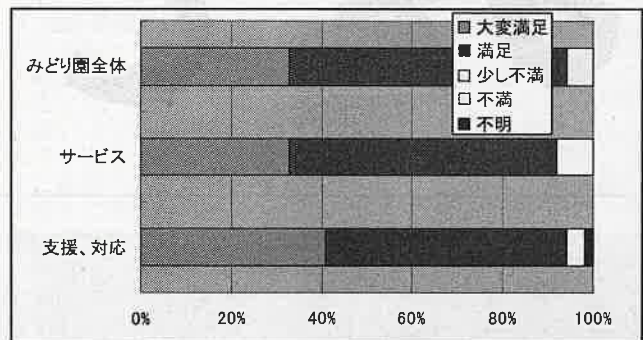
なお、個人情報保護に関しては管理方法を見直したが、報道で見る諸種の事件を他山の石として、一層の留意を図っている。

『私達は家族 ～家族として望む支援ってなんだろう??～』

24年度 利用者満足度調査

25年度がスタートして早くも半年が経ちました。今年度のスローガンは昨年度と同じ「私達は家族～家族として望む支援を利用者に～」です。今までより更に質の高い支援を目指して、今回は「家族として望む支援とは??」をテーマに考えてみました。

平成24年度実施の満足度調査では、多くの方に「大変満足」「満足」という回答をいただきました。



保護者から寄せられた意見から

- ・入浴は1日おきではなく、毎日入れさせてほしい。
- ・色々な取り組みをしていただき、要求を口にするなど変化、成長が見られています。
- ・みどり園の子どもたちは十人十色です。よろしくお願い致します。
- ・職員数が少ないため、外へ散歩に出かけることが少なくなっている。
- ・本人もいつまでも元気で暮らせることを祈っています。

アンケートに寄せられた意見から、入浴だけでなく、夏場のシャワー浴を開始したり、日中活動内でバス外出や個別の買物外出の機会を増やすなど、すでに取り組みを開始しているところもあります。職員の対応については、みどり園を利用している一人ひとりが家族から大事に思われている存在なのだと理解して、誠意ある対応をする必要があると感じました。

利用児、利用者へのインタビューから

みどり園の生活や日中活動について、利用されているご本人たちの話を直接聞いてみました。

- ◎ レオマに親子遠足で行ったのが楽しかった。また行きたい。(日中作業班では)作業に集中して取り組めるようになりたい。お金の計算も自分でできるようになりたい。このあいだお金がちゃんと数えられなくて困ったから。(南棟 生活訓練班 男性)
- ◎ みどりもええけど、家に帰りたい。母さんがおるけん。(日中班では)ケーキを買ってくれるのがうれしい。牛を見に行ったりしたい。お金も稼ぎたい。(何をかうの?と聞くと)車を買う。母さんが乗るけん。買ってやるんや。(南棟 介護C班 男性)
- ◎ お野菜の販売が楽しいです。最近ではサニーレタスや玉葱を売りに行きました。たまにしんどいなと思うこともあるけど、来なかったらいかんと思って頑張ってきています。おやつをみんなで揃って食べられるようになるといいな。(生活訓練班 女性)
- ◎ ファミリーマートにぷっちょを買いに行くのが楽しみ。キャンプや担当者とイオン外出したのも楽しかった。漢字が書けるようになりたい。(児童課 女児)
- ◎ 野球やおにごっこを皆でするのが楽しい。釣りの話もする。みどり園で部屋の片付けができるようになった。自立できるように勉強をしていきたい。時間を守ったり、ルールを守る!うどん屋で働きたい。お兄ちゃんがおるけん。(児童課 男児)
- ◎ いつも帰ってきたらゲームやWiiやぬいぐるみで遊んでいます。大人になったらお父さんと同じ会社で働きたいです。(児童課 男児)
- ◎ 友だちと遊ぶのが楽しい。家族や職員には「ありがとう」って言うんや。(児童課 女児)
- ◎ みどり園を卒業したら車屋さんで働きたい。車好きなん。(児童課 女児)



掲載は、職員の思い込みを避けるため自分で話ができる利用者だけになっていますが、言葉がない方についても、思いをしっかり受け止めていかなければならないと感じています。

職員が思う「家族として望む支援」

様々な立場で利用者に関わる職員4人に思いを書いてもらいました。



◎ 私が普段から心がけていること…それは、「ねえねえ」と声をかけられた時には、必ず話を聞いてあげる、ということです。大人数で生活をしているため、どうしてもその場ですぐに話を聞いてあげられないこともあり、さびしい思いを感じる利用者の方もいるかと思えます。しかし、そんな時でも、決して声をかけられたことを忘れず、必ず後から「さっきの話何だったの？」と聞きにいこうと心がけています。『話を聞くよ』という姿勢を見せることで、大人数の中で過ごす利用者の方の寂しさを少しでも減らせばと考えています。

◎ 支援するに当たって、ある先輩から「支援は誰でもできるけど、誰にでもはできない」と言われ、最初はその意味がわからず軽く流していました。今その意味を考えてみると、そこには「無償の愛」が無ければ、利用者の立場に立って支援することはできない、今仕事として支援しているから無償ではないが、とにかく「愛」「愛情」が無ければいけない、と今は思いながら支援をしています。特に自分の担当の利用者には、家族愛に似た気持ちで接し、これからもその思いを胸に支援していきたいと思っています。



◎ 「くちづけ」という映画を観て、障がいを持つ人の家族の背負っている重荷について、つくづく考えさせられました。その重荷を少しでも軽減してもらえそうな支援をしていかなければならないと思いました。みどり園という大きな家庭の中で、利用者さん達が安心、安全に楽しく生活できる居場所の提供が必要です。みんなが園で生活できて良かったと思えるような支援を日々努力していきたいと考えています。

◎ 言葉のないある利用者がいつに増して他害が頻発。おかしいなと思っていたら数日後顔が大きく腫れた。虫歯の痛みでイライラしての他害だったのだろう。それをわかってあげられなかった。

我が子が幼い頃、何か違う行動をとれば、必死にその原因を推察し、対応をいろいろ変えていたはずだ。言葉で訴えることがうまくできない利用者が多い中、その行動から気持ちを察して仮説を立てて支援をしたい。間違っているかもしれない、少なくともその訴えを無視するよりは。でも彼等の訴えをキチンと受け止めることができるように精進します。

児 童 課

わかば児童課長 岡崎由起美

4月からわかば児童課長として配属になりました。どうぞよろしくをお願いします。

春は別れと出会いの季節ですが、3月には子どもたち4名を送り出し、3名の子どもたちが仲間入りし、今年度35名でスタートしました。

北棟では、昨年度から取り組んでいる構造化の手法を用いて環境を整備したことでコミュニケーションが広がり、自分で理解して行動し自分のしたいことを伝えることが増えています。西棟では、中高生全員が部活動に参加し、上級生がリーダー

シップを発揮して奉仕活動や体力づくりなどに取り組んでいます。

また、昨年度から心理職員が被虐待等で心に傷を持つ子どもたちに定期的に面接を行い、心のケアを図り安定した生活ができるよう配慮しています。

一人ひとりの意思や権利を尊重した支援を行い、安全に健康で楽しく過ごせるよう、また認めて褒めて力を伸ばすよう子どもたちの成長を精一杯支援していきたいと思っています。

今年も元気いっぱい!西っ子です♪

この4月は職員の退職や異動が重なり、出会いとお別れの重なったあわただしい始まりでした。また中学部、小学部をそれぞれ卒業し、新たに高等部や中学部、また小学部に入学したピカピカの1年生が4名おり、晴れやかな雰囲気の中にもありました。

そんな春休みの4月4日、バスで仏生山公園にお花見遠足に行きました。キャッチボールにバドミントン、花びら拾いにブランコ、体をいっぱい動かしたあとは、お楽しみのお弁当タイムです。見てください、このとびきりのいい笑顔!!今年も、まぶしい笑顔がたくさん見せてくれそうな西っ子のみんなです。(笹川)



構造化、これからの課題

構造化を取り入れ2年目になりました。

1年間試行錯誤し取り組んできた結果、現在は多くの子どもに定着してきています。しかし子どもたちは日々成長しています。そのため構造化も変化していかなくてはなりません。

保護者や学校からの意見も聞きながら、個々に小さな課題を設定し、スモールステップで達成できるように取り組んでいきたいと思えます。(三野)



自ら課題に取り組むことが増えました！
(タオルたたみの課題に取り組み中)

みどり園でのコンサルテーション

香川大学教育学部 特別支援教育講座
教授 坂井 聡

香川県立川部みどり園で数年にわたりコンサルテーションをしています。ここでの基本は、どんなに障害が重くても、周囲の人たちに認められながら、個人の尊厳が大切にされた生活のありようを考えることです。そのために取り組んだのが、生活環境をいかにわかりやすくすることということです。その方法として、物理的な構造化のアイデアやスケジュールの構造化、視覚的な支援の工夫などを実際の現場で提案してきました。支援者が、利用する一人一人のことを考え、より質の高い、わかりやすい支援が何かを考えたとき、障害の重い人でも快適な生活が送れると信じています。そして実践してきた結果が少しずつ実ってきています。これは、一つの施設が新たに歩むために、避けては通れない実践だったのだと理解しています。

まんのう公園に行きました！

生活介護A班は、5月16日(木)にまんのう公園へバス外出に出かけました。天候にも恵まれ、春の風や花の匂いを感じながら園内散策を楽しみました。

一番の楽しみはお弁当。利用者の方々が自分で選んだ弁当だったので、嬉しそうに食べている姿がとても印象的でした。また、園内散策で汗をかけたあとは、何を買おうかと迷いながらジュースやアイスクリームを購入し、疲れた体を癒しました。

利用者の方々の笑顔が満開の楽しいバス外出となりました。これからもいろいろと計画していきたいと思えます。(泉川)



トピックス

みどり園まつりのご案内

毎年恒例のみどり園まつり、今年は10月26日(土)に開催します。

バザーやステージイベント等、利用者の皆さんや地域の皆さんが楽しめる内容を思案中です。今年も楽しく地域の方々ともふれあいながら、みどり園をご理解いただけるよう準備を進めていきたいと思えます。

作品展やバザーのお手伝いなど、皆様ご協力よろしくお願ひします。(中村)

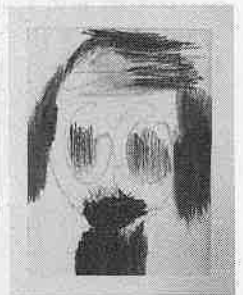
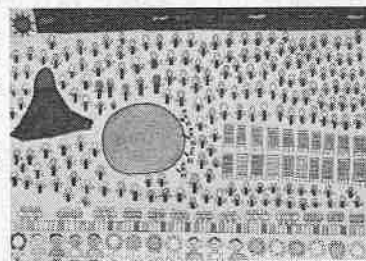


Green Art Gallery

ぐりんあーとギャラリー

みどり園ホームページで開催中。様々なタッチの絵や作品がずらり！

みどり園の画伯たちの作品をぜひ一度ご覧下さい。



<研修会のご案内>

今後の研修日程についてお知らせいたします。

相談支援従事者初任者研修	(8月19日、26日、29日、9月1日、2日)
サービス管理責任者等研修	(共通講義 10月31日)
	(児童発達支援 11月7日、8日)
	(就労 11月18日、19日)
	(知的・精神 11月25日、26日)
	(身体 12月7日、8日)
	(介護 12月12日、13日)
相談支援従事者現任研修	(2月19日、26日、27日)

この他、秋頃に「地域移行支援セミナー」を、年明け頃に「障害者虐待防止研修」も実施する予定です。どの研修も、開催要項ができ次第、みどり園のホームページに掲載します。ご不明な点は、みどり園研修担当まで、お問い合わせください。(有岡)

苦情解決処理状況
(平成25年1月1日～
平成25年6月30日)
苦情受付件数 0件

編集後記

今回、利用者の声をはじめ、保護者の声、職員の声など様々な人の声を聞く良い機会を得られたことを幸運に思います。様々な人の想いのつまったみどり園をこれからも皆でつくりあげていきます。(杉山)

編集・発行 〒761-8046 高松市川部町418
香川県立川部みどり園 TEL(代)087-885-8600
E-mail:midorien@pref.kagawa.lg.jp
http://www.pref.kagawa.lg.jp/shogaihukushi/midorien/